

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	腫瘍制御科学領域 泌尿器腫瘍学教育研究分野 氏名 城戸 宏一
指導教授氏名	大山 力
論文審査担当者	主 査 漆館 聡志 副 査 井原 一成 副 査 富山 誠彦
(論文題目) Sleep Disturbance Has a Higher Impact on General and Mental Quality of Life Reduction than Nocturia: Results from the Community Health Survey in Japan. (睡眠障害は夜間頻尿よりも一般的 QOL および精神的 QOL に強く影響を及ぼす)	
(内容の要旨) 【背景】夜間頻尿や睡眠障害は QOL 低下と密接に関連するとされてきたが、どのドメインの QOL に悪影響を与えるのかは明らかにはなっていない。さらに、夜間頻尿と睡眠障害のどちらがより強力に QOL に悪影響を及ぼすのかも不明である。 【目的】本研究の目的は夜間頻尿と睡眠障害が各々のドメインの QOL にどれほどの影響及ぼすのかを比較検討することである。 【対象と方法】2011 年から 2015 年の間に岩木健康増進プロジェクトに参加した男性 1529 名、女性 2463 名、計 3992 名を対象とした。睡眠障害は PSQI (ピッツバーグ睡眠指数)、男性の下部尿路症状は IPSS (国際前立腺肥大症症状スコア)、女性の下部尿路症状は OABSS (過活動膀胱症状スコア)、QOL は SF-36 を用いて評価した。統計解析は SPSS, version 24.0 等を使用し、 p values <0.05 の場合に有意差ありと判定した。SF-36 低下率が 30%を超える場合を有意な QOL 低下と定義した。夜間頻尿と睡眠障害が QOL 低下に与える影響について univariate-logistic regression analysis を用いて評価し、さらに inverse probability of treatment weighting (IPTW)-adjusted logistic regression analysis を用いて QOL 低下をきたす因子に関する検討を行った。 【結果】3992 人の参加者のうち 632 人 (全体の 16%) に睡眠障害を認めた。夜間頻尿の頻度は PSQI score と有意に関連していた。QOL ドメインのうち睡眠障害と夜間頻尿の両方が身体的 QOL と有意に関連していたが、夜間頻尿は一般的 QOL と精神的 QOL には関連していなかった。multivariate-logistic regression analysis では、夜間頻尿は一般的 QOL および精神的 QOL 低下とは関連していなかった。一方で、睡眠障害は全てのドメインの QOL 低下と有意に関連していた。 【結論】睡眠障害は一般的 QOL と精神的 QOL に対しては夜間頻尿よりも大きな影響があり、身体的 QOL に対して両者は同等の影響力があることが示唆された。 本研究は睡眠障害と夜間頻尿が QOL 低下に与える影響を詳細に検討した初めての報告であり、今後の臨床応用も期待できるため、学位授与に値する。	
公表雑誌等名	European Urology Focus. 5(6): 1120-1126, 2019